



【6日目】岡谷から南小谷へと直行する便利な列車(写真⑥)に乗る。前日、飯田線で知り合った大学生が松本から乗ってきた。春の就職を前に、18きっぷの旅を楽しんでいるという彼に、「新潟の味もぜひ」と、糸魚川駅前で買った地酒と釜すし(写真⑦)を宣伝しておいた。

何にも用事がなくたって、糸魚川にまた来ておくれ。

車内は「同好の士」が多く、列車が駅に着くたびにホームに下り、駅名表示板を撮影しては戻るという動作を黙々と繰り返している。

遅い夕飯を取った岡谷駅前の食堂は馬肉の焼き肉がうまかった。さすが信州。

伊勢はいいところだと書いたが、どんなまちも、歩けば好きになる。鉄道を楽しむ者。自称「鉄樂者」の日誌をダイジェストで。

**【1日目】**

昼、松本でそば屋に入った。そばを待つ間に冷酒の小瓶を空ける(出張じゃないからな)。空氣もうまい。ほろ酔いで名古屋に着いた。計7本の列車を乗り継いだ。疲れはいるが食欲旺盛。手羽先唐揚げ、みそ串カツに続き、台湾ラーメン(写真①)を平らげた。3度目の名古屋。

## 歩けばまちが好きに

伊勢は近い。「18きっぷ」1日分を使うのは避け、近鉄線で移動する。参拝者を路線バスでさばく手際のよさ。バス停の案内から切符の販売まで、お見事だった。拍手。

**【3日目】**

紀勢線は空席が目立つ。新潮社「日本鉄道旅行地図帳」を広げていると、高齢の男性から声を掛けられた。

三重県松坂市の人だった。80歳。定年後、夫婦で穏やかな日々を送っていたが、2007年の台風で伴侶街も、運転士や駅員の応対も、記憶ががあれば津波が心配だ。電車のドアには、避難の心構えが貼つてあった(写真②)。

行く先々で小さな私鉄にも乗った。御坊から紀州鉄道で終点西御坊へ。全長2・7キ。落ち着いた商店街も、運転士や駅員の応対も、記憶の乗り心地を体験したい。数駅だけ乗った。そのあとは養老鉄道にまた。

うまさを再確認。

「きょうは熊野市へスケッチに」

スケッチブックは優しい水彩の風景画で埋まっていた。愛妻と訪ねた思い出の地なのだろうか。

熊野に着いた。「お元気で」と私。

紀勢線は海辺を走る。熊野速玉大社の新宮も、本州最南端駅の串本も、地震があれば津波が心配だ。

桑名から出る私鉄も味わい深い。

まずは三岐鉄道北勢線の小さな車両(写真④)にこ対面。軌間762ミリの乗り心地を体験したい。数駅分だけ乗った。その後は養老鉄道にもチョイ乗りして桑名に戻る。

復路の主舞台、飯田線は195・7キ。豊橋を午前10時42分に出た列車は辰野から中央線に入り、岡谷に着いたのが午後5時31分。約7時間かかったが、秘境を眺めながらカツブ酒(写真⑤)を飲んでいたらあつという間だった。

和歌山の朝、ネコ駅長の和歌山電鉄貴志川線に乗車。カラフルな車両は見ていて飽きない。その一つ「おもちゃ電車」(写真③)も楽しい。

奈良を経由して桑名へ。何はともあれハマグリを食べられる店に直行。名物にうまいものあり、だ。

【4日目】

和歌山の朝、ネコ駅長の和歌山電鉄貴志川線に乗車。カラフルな車両は見ていて飽きない。その一つ「おもちゃ電車」(写真③)も楽しい。

奈良を経由して桑名へ。何はとも

に残る温かさ。